

太陽の子

2018年 7月 No.164

夏の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



小グループ活動での外食。お肉にデザートと食事もみんなで楽しみました。(ひまわり学園)

配慮〜心をくばること

日立市太陽の家・ひまわり学園 しいの木学園

管理者 菊地 祐二

朝、友達のために「誕生日おめでとう。」とバースデーの歌で祝福してくれる、しいの木学園のAさんは歌手や芸能人、今までに知り合えたほぼ全員の誕生日を把握していて、その記憶力の凄さに驚かされます。人には一人一人違った個性があり才能があります。適切な配慮を受ければ、潜在的な能力を発揮しやすくなり、人生が楽しく豊かなものになっていくでしょう。

障害者福祉は、時代のニーズに合わせた法制度の改革、整備が行われ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、バリアフリー等の考え方が浸透してきました。そして一昨年から障害者差別解消法ができ、不都合を感じさせないような工夫、合理的配慮をもって社会的障壁を取り除こうとする法律が施行されました。

幸い太陽の家は、このような法律が出来る以前からその個人がどのような障壁や困難を抱えているのか、何が必要なのか、相手の立場に立って気持ちに寄り添いながら、住み慣れた地域で自らの意思で自ら望む暮らし方を選択し、自己実現出来るよう支援してきました。その流れが当たり前に出来ていることは大いに誇れることではないかと思えます。

時に利用者さんは予測出来ない行動を起こすことがあります。自閉症、強度行動障害等、障害を持たれる方特有の行動やこだわりに接する時、決して「思いやり」を持ってさえいれば通じる物事ばかりではありません。また、重症な心身障害を持たれる方達の安寧な姿勢保持、呼吸器管理等、知識や技能を備えていなければ対応が難しいケースもあり、障害に対する正しい理解と、スキルを身につける努力が常に必要なのではないかと思っています。

「までい」の精神と

私の支援

しいの木学園 横田平道

しいの木学園に勤め、作業の参考になりそうな工房などへ見学に伺う様になりました。車で出かけるのですが、道の駅巡りも楽しみになりました。道の駅にはその土地の特産物（工芸品）などが有り、商品作りの参考になりますし、場所によっては、しいの木学園のような施設の製品が売られていて、とても刺激的です。米探しも楽しみの一つで、新品種や地域性を感じるものがあると嬉しくなります。気が付けば、東北地方の道の駅は全駅を制覇していました。

今回は160ほどある東北地方の道の駅で、一番印象的だった道の駅の事を書かせていただきます。昨年末の事、福島県の飯館村に「までい館」という道の駅が出来たと知り、行った時の事です。私は目的地に近づくにつれ、後悔をはじめていました。飯館村といえは震災による原発事故の影響で長い避難地域となっていた所ですから当たり前な

職員リレー

いい笑顔が力量なり

日立太陽の家居宅介護事業所 支援員

鎌田節子

び、今ある幸せを感じながら（見つけながら）生きています。そこには否定的な思いはまったく感じとれません。キラキラと輝いて見えるその人を見て、利用者さんもこの人の様に輝いてほしいと強く思いました。

私の見方（感じ方）が片寄っ

ていた事に気付くと、帰り道の景色は美しく晴れやかに見えました。最近、またその道の駅に行きました。が近隣で生産された農産物も増え、更に活気が出ていました。何より、までいの精神で生きている地元の方にふれあえた事は、私の活力となりました。

まっ青な空と海、水平線が見える太陽の家に来るといつもわくわく気分にならせてくれます。

私たちは利用者さんのサービス時間に合わせてそれぞれに出勤してスキんシップをとって、元気な声、笑い声から一日が始まります。利用者さんの一人ひとりの準備をみんな協力し合いながら済ませた後、各自サービスに向かいま

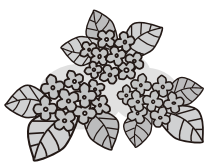
す。自宅はもちろんのこと、商業施設、公共施設、通院のお手伝いなど希望に添ったより良い時間を過ごしていただけたらと思っています。

重度訪問ではドライブしながら車窓から四季折々に変わりつつある風景を感じたり、散歩しながら植物の色や香り、感触を味わうこと、小さなお子様を見てはやさしい声でささやき、バスを見て嬉しそう

各利用者さんに合わせた加工をして中、プレイルームはいい匂いが漂ってたまりません。今日は中華丼？スパゲティー？ハンバーグ？マックかな？の声かけに、利用者さんは何となく顔が「あげないよ」といい表情を見せてくれます。又、お母さんの手作り弁当を持参する利用者さん、笑顔で「おいしいねえ」と言いながら時間をかけて完食します。

また、居宅介護事業所に来て入浴されたり、自宅に伺い入浴、水着を着て一緒に湯船につかり、歌をうたったりお話したりとあつと言う間に時間が過ぎてしまいます。気持ち良さそうな表情や身体を活発に動かし喜んでくれる姿を見るとこちらも嬉しくなり、思わず心で「ありがとう」と幸せな気分になります。

これからも居宅介護事業所も大いに利用しながら生活の幅をどんどん広げていただきたいと思えます。



日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

成年後見制度の

利用について考える

佐藤 芳昭

茨城県重症心身障害児（者）を守る会平成三十年度の総会が東海村の総合福祉センターで開催されました。その総会の中で午後の部に「みんなで語ろう」の時間が一時間程設けられ、中野理事の司会で話が始まりました。司会者から成年後見制度の利用についての事柄が提案されましたので、それについて色々と話し合い非常に有意義な時間でした。この制度は平成十二年に施行され十八年を経過しております。この制度が出来た背景には、成年後見の対象となる人の増加（判断能力が不十分な認知症高齢者・知的障害者・精神障害者など）、措置から契約制度へ福祉が変わったことなどがあります。

このような背景で生まれた制度ですが、私は子供を施設へ預けているにもかかわらずこの制度を利用しようとは思わないのです。むしろ、ぎりぎりまでは制度を利用せず、頑張ろうと思っているのです。私がこのような考えでは本当は良くないでしょう。むしろ率先して制度を利用し会員の方々に利用する上での良い点悪い点等を伝えることが良いのかもしれない。しかし申し訳ありませんがまだその気持ちになれないのです。一つとして考えられる事は、他人の手を煩わさなくてもまだ大丈夫だということが最大の理由かと思えます。しかしそれだけではないのです。利用している人の話によると、子供の為に使った費用が子供の財産から思うように使えない。家庭裁判所へ提出する書類は内容が多く面倒で手数がかかる。家庭裁判所の職員により費用負担の考え方が統一されてなく書類を提出する度に訂正させられることがある。

一度制度を利用すると途中で止めることが出来ない。など積極的に制度を利用しようとする気持ちになれない事が多々あると強く感じたからなのです。

私もある時期までは制度利用の必要性を感じていた一人でしたが、現在ではあまり積極的にならなくてよいのではと思うようになりました。

多くの方々に

支えられて

小林 修

幼い頃、成人になるまでは生きられないだろうと言われて息子が、今年四十八歳を迎えることができました。ここるところ入院する度に、元気に退院できるか心配な状況が続いていました。今年の正月早々九日に、便がでなくなつて訪問看護師と主治医との相談で入院しました。二つある腎臓のうち一つは以前から機能していません。残った機能している方が先生もびっくりするぐらい大きく肥大していました。しばらく高熱が続いていましたが、一月末容態が落ち着いてきたので、三十一日に退院しました。しばらく

但し、いずれは利用するようになることを考えて意中の人には常に話をし理解を深めてその時になって慌てないよう心掛けておくことが大事であると思っている一人です。要は子供が安心して生涯を送れるように対策を講じておくことなのでしょう。皆様方はどう思いますか？

の間状態が安定しませんでした。笑顔もなく、言葉も語らず、徹夜続きで、うるさく怒つてばかりの日々でした。表情もすつかり変わつて、これまでのような黙つて静かにしている姿は影を潜めました。退院から四ヶ月が過ぎた最近、少しづつ、元の姿に戻りつつあるように感じます。

元気なうちに楽しい思い出をたくさん作ってあげたい、そんな思いで体調のいい日に外へ連れ出すよう心掛けています。親も後期高齢の域に入り自分のことで精一杯で、二人合せて半人前にもならない状態です。訪問看護師さんや訪問入浴、太陽の家通園風の家、居宅、ショートステイなど、多くの方々のご支援を頂きながら息子も在宅で暮らすことができます。

思いやりのある温かいご支援に感謝しています。

久しぶりの

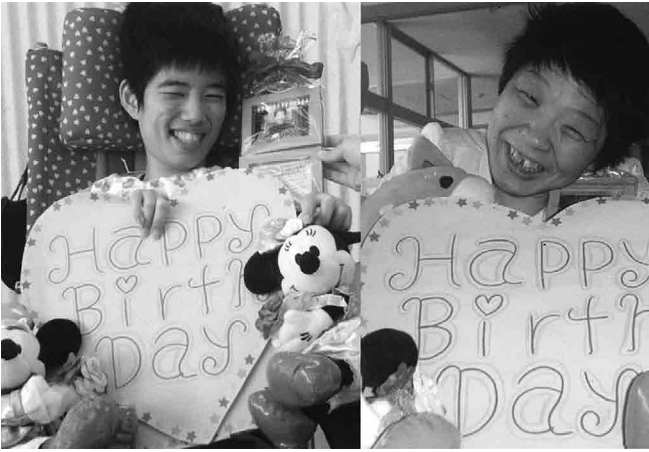
リハビリ

和田 いつみ

訪問リハビリを紹介していただき、始めて約二年位になります。学校を卒業するまでは、病院のリハビリと母子療育ホームで体を動かしていたのですが、私が体調を崩してしまいましたが、私が体ながら何もせず三年位過ごしてしまいました。訪問リハビリは月二回お願いしています。最初は、ひさしぶりという事もあり、何をされるかととても不安で緊張し、かなり力が入ってしまいがちで時間がながかりました。今ではとてもゆつたりと力が抜け、苦手を動かされても気持ちよくウトウトとしてしまう事もある位です。注入時や普段の姿勢など、クッションやタオルを使って数えていただき、ゆつたりと過ごす事が出来る様になりました。

今年の四月からは三ヶ月に一回看護師さんが一緒に来てくれる事になりました。

(次頁へ)



誕生会をしました。笑顔に似合うステキな1年になりますように。(太陽の家)



小グループ活動でひたちなかの室内釣り堀へ。大きな鯉や金魚を釣り上げるたびピチピチと跳ねる魚に「キャー!!」と歓声が上がりました。(ひまわり学園)



みんなで音楽番組堪能中戸音楽番組を見ながら、みんなでカラオケ大会になることも……(風の家)



気持ちの良い晴れの日のお散歩。みんなで元気に「はないちもんめ」をよりました。(太陽の家)

「日立太陽の家支える会」について
 太陽の家支える会は、寄付を通して日立太陽の家の活動を支えることを目標としている団体です。NPO法人日立太陽の家が実施している、「生きがい支援事業」や「緊急一時保護事業」そして「少ない個人負担で病院へ行ける仕組みづくり」をしています。この「少ない個人負担で病院へ

お知らせ

男性 百八十六名
 女性 百三十五名
 利用者総数 三百二十一名

◎平成三十年度
 NPO法人日立太陽の家



(前頁より)
 まだ一回ですが色々聞く事が出来、今回は息子はうがいが出来ないので口の中をきれいにする方法を教えていただきました。さっそく実行したいと思います。リハビリだけではなく全体的に見ていただきとても安心していきます。これからも、色々教えていただき息子が生活していく上でいい事は出来るだけ取り入れていきたいと思えます。

七月五日、今年も日立市太陽の家の開園記念日を迎えることができました。たくさんの人たちの思いがひとつになり形になりました。たくさんの愛と勇気、優しさに包まれた太陽の家。ここで日々携われます。ことに感謝したいと思います。(K記)

編集後記

椎名将光 篠原小百合
 柳ライフナビ代表 梶山貢市
 今井かおり 神田千拡
 井関えり子 石川侑里子
 藤田恭子 三月～五月

「ご寄付ありがとうございました」
 ○次の方から寄付を頂きました(敬称略) 三月～五月
 黒澤弘明 佐藤芳昭 日立太陽の家ボランティアグループ
 鈴木貴一 日立太陽の家支える会
 澤島供弘・京子 横田寿子
 ○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)
 0294-2222632